

電子書籍

「英語を話したいのに

なかなか口から出ない人を救う『たった1つのポイント』」

西沢知樹 / 有限会社ケイティクス

このたびは、電子書籍をご請求いただきありがとうございます。

この書籍では、あなたの英語学習に役立つリソースと、そのうえで、「英語を口から出す」といういわば英語会話の根本的スキルを習得する上で、ほとんどの人が気づいていなかった重要なポイントをお話します。

これを知らないまま学習を続けることは、ある意味とても危険です。この機会に、英語会話のマスターという目標のため、ぜひこのポイントを知っておいてください。

●英語上達に役立つ、無料で使えるリソース集

まずはあなたの英語学習を助け底上げしてくれる情報をお伝えします。全てあなたが今すぐにネットから【無料で利用】できるものばかりです。お役立て下さい。

教材にお金を使うのも良いですが、すぐに出来ることをすぐにやるということも大切です。

英語上達のために必要な全要素、つまり「Speaking」「Listening」「Reading」「Writing」「Grammar」の5つを個別にきっちりと磨けるように取り揃えてあります。

1. リスニング

NHK 英語サイト

<http://www3.nhk.or.jp/nhkworld/>

あまりに定番と思うかもしれませんが、ここは使えます。なぜなら、「毎日日本語で見聞きしていて、内容を知っているニュースが題材である」「それらの題材に関して、丁寧な発音で、英語圏のニュース音声よりもゆっくり目のスピードで提供してくれている」からです。つまり、「リスニング初級者」に最適だということです。CNNなどと比べると格段に易しい。

いきなり海外のニュースや、高価で高度なリスニング教材に飛びついて、分からず諦めてしまう前に、まずはここから始めてみてください。

BBC Radio

<http://www.bbc.co.uk/radio/>

ご存知イギリスの国営放送、BBC は非英語圏の英語学習者にも役立つ情報をたくさん提供してくれています。外国語として英語学習者用に用意された「BBC Learning English」が有名でしたが、ここでは生きたリスニングを手軽に学べる BBC Radio を取り上げます。先ほどの NHK と違って、これはイギリス人のための英語コンテンツ、つまり「英語のナチュラルスピードにより近くなっている」ということですね。

ですから、NHK に慣れた後で、一段レベルアップするのに最適なのです。

2. リーディング

英語上達の究極の手段は、「英語を大量に読むこと」だというのは英語の達人クラスの方々がみな口をそろえて指摘することです。ここでの達人クラスというのは、近所の英語の先生レベルではなく、日本で数名、とかそれくらいの人のこと。ですから、これは間違いない真理ということです。それに、留学するにせよ、仕事で英語を使うにせよ、読めなくては話になりません。

早いうちから、質が高くて面白い英語をどんどん読む習慣をつけることです。

Bibliomania

<http://www.bibliomania.com/bibliomania-static/index.html>

英語の短編小説、スピーチ、学术论文の抜粋などがふんだんに置かれていて全てクリックひとつで読めます。当たり前ですが、全部英語で書かれてあるので最初は戸惑うかもしれません。けれど、いろいろ見ながらそういう状態に慣れていくのも、英語力をアップさせるのには大切です。

私のオススメは Short Stories です。初級者の方はここを拾い読みしていくと面白いです。

3. スピーキング

どうしても気になるのが「英語を話す」=speaking に関する部分じゃないでしょうか。世間で、英語のスピーキング力を会得するためには、以下のようなことが必要だと思われていますよね。

- ・ 英会話で出てくる頻出表現を暗記して知っておく
- ・ 実際にネイティブ相手に話す機会を持つ

前者は、世間に山ほどある英会話の教科書が扱っていること。そして後者は、やはり山ほどある英会話スクールが扱っていることです。

この2つをネットで、お金をほぼかけずに出来る機会があるので

す。

DMM 英会話

<http://catiksp.biz/t/02d2a>

既にご存知の方も多いと思いますが、こちらの体験レッスンは「かなり」使えます。オンライン英会話は数多くありますが、講師の質を結構厳選しているのが分かります。

体験を利用して続けるのもいいですし、体験から何かを得るきっかけにしていくのも方法だと思います。

4. ライティング

英語を書くのは大切、とそう思って、英語日記などをつけてみたことがある人、多いんじゃないでしょうか。続けている人はすごいと思いますが、たいていの人は三日坊主か、それに似た程度で終わってしまうんですよね。最近だと、「英語でブログ」「英語でツイッター」というのもありますが、これも日記と同じで相当なモチベーションが自分ないと続きません。続かないワケ。要は、英語を書く機会に「フィードバック」がないからです。

誰か第三者の目になるチェックや添削があれば結果は違ってきます。

英語顧問 JP

<http://eigocommon.jp/rd/>

ここでは書いた英文を添削してもらえます。添削のジャンルも日記に限らず自由です。利便性に応じて選べます。

無料で1か月間も使えるため、クオリティを試すこともできるので安心して利用できます。

5. 英文法

英文法は、英語の実用能力を妨げる諸悪の根源の様に言われてきましたが、最近になってようやく冷静に考えられる人が増えてきた気がします。

実際、文法は大切ですし、文法を知らずにやみくもに会話だけをやると間違いなく「頭打ち」になります。

正しい方法で文法を学ぶ手段を知っておくことです。

English4Today

http://www.english4today.com/free_content.cfm

海外のサイトで、無料であなたの英語の grammar チェックをしてくれます。

その他にも、英語学習に役立つコンテンツが数多く用意されています。

本題:英語が上達する情報はそろいましたが・・・

さて、ここからがこの電子書籍の本当の本題です。

ここまで、数多くの英語上達に役立つ無料情報をお話してきました。つまり、誰でもこれくらいの英語上達の情報は簡単に手に入れることができる、ということはこのことは意味しています。

英語についての情報が、目の前にご馳走のように並べられている。それを勉強していく、覚えていく。これはこれでももちろん、大切なことです。

でも、それだけで英語を話すことはできない。だから、世間では英語を話せない人がほとんどである。

まずこのことに、気づいてください。

もう1度繰り返します。

情報は大事だが、『英語の情報を吸収する』だけでは、

英語を話せる、使えるようにはならない

実は、この点こそが、たくさんの人たちが英会話スクールへ行っても英語が話せない、一番の根本的な原因なのです。

●「××だけではダメだった！」誰も指摘していない英語の真実

↑に書いてある、この「××」。

これが何か、ここまで読み進んでくれたあなたは、もうお分かりですね。

そう。英語の情報。「××」＝「情報」です。

情報だけではダメだった。

情報だけでは、英語が話せるようにならないのです。

ここで、今一度目を向けてほしいのですが。

英語が出来ない人、英語で苦しんでいる人がウジャウジャいる
一方で、「英語を使いこなしている人」も、実際に世間に存在して
います。ちゃんと一定数存在しています。

さっき、英語の達人という言葉を使いましたが、何かにつけて英
語が出来ない国だと悪評の高い日本にだって、それだけの数の
英語の上手い人がいるわけです。英語を母国語としない中国や
ドイツ、その他諸々の国にも必ずいます。

この事実を考えてみると……

英語を使えるには、情報だけじゃダメ。

↓

実際に英語を使っている外国人は山ほど存在する

↓

それならば、彼らは英語について「情報」以外の
「何か」をあわせて身につけているはず

というロジックが、成り立ちます。

では、日本人や中国人、その他非英語圏の人たちで、英語が話せる外国人はどうやって英語を話しているのでしょうか。

英語が話せる人と、話せない人の違いは、一体なんなのでしょう？「情報」以外の何か「××」とは、なんなのでしょう？

いよいよです。

次のページで、それを全て明かします。

●ネイティブ講師が教えることができない術「MF サーフィン」

日本人や中国人、その他非英語圏の人たちで、英語が話せる外国人はどうやって英語を話しているのでしょうか？英語が話せる人と、話せない人の違いは、一体なんなのでしょう？

お話します。

それは「MF サーフィン」というものです。

.....

もちろん、これだけじゃ何のことか分からないと思うので、もう少し詳しく説明します。

英語が母国語じゃないのに英語を話せる人は、英語という言葉話すために、母国語を話す自分から、英語を話す自分に変わる「切り替え方」を知っている、ということです。言語というものが

それぞれ特有のリズムや波というものを持っているとすれば、母国語である日本語の思考感覚の波から、外国語である英語の思考感覚の波へと移動する方法を知っている。つまり母国語 mother tongue の波から、外国語 foreign language の波に渡ることができ、だから「MF サーフィン」というわけです。端的に言うなら、言語間スイッチの切り替え、と例えてもいいでしょう。

英語という言葉には、英語のためのスイッチ(波)がある。英語が母国語じゃないのに英語を話せる人は、英語という言葉を話すために、英語を話す自分に変わる「スイッチ(波)の切り替え方」を知っている、ということです。

日本語という言葉には、日本語のための波とスイッチがある。

中国語という言葉には、中国語のための…

ドイツ語という言葉には、ドイツ語の…

人は、それぞれの言語を話すとき、それぞれの言語に合ったスイッチを自分の中に持って、外国語を使うときには、母国語からスイッチを切り替え、外国語の波に感覚を切り替えるのです。

例えるなら、あなたがもしどこかの地方のご出身で、都会で働いているとして、郷里で方言で話すときと、職場で標準語を話すとき、何か自分の中で「感覚が違う」と感じることはありませんか？これとまったく同じことが、異なる言語の間にも存在するのです。

そして、ここが大切なポイントなのですが……

この「英語のスイッチ」は、アメリカ人やイギリス人、オーストラリア人と言った、英語を母国語とするネイティブは無意識に身につけているのです。育つときから、何も考えることなく。

けれど、私達日本人を含め、非英語圏の外国人は、これを後天的に覚えなければならない。母国語とは別に、新しく組み立てて、しかも、母国語の波から切り替える方法を知らなければいけない。

ここで、また考えてみてほしいのですが。あなたは「自分の人生で、無意識に身に着けてきたこと」を、筋道を立てて説明してきつちりと他人に教えられますか？

たとえば、「箸の持ち方」をイヌイットの方に教えるときのことを想像してみてください。筋道立てて、1つ1つ教えていくことは、難しいんじゃないありませんか？その代わりに、自分でやってみせて、「これをマネしてください」としか言えないはずですよ。

けれど、いきなりマネしてみろと言われた方は、困ります。

その人が器用な人ならいいけど、そうでない人は出来ないという、

きわめてあやふやな状態になってしまうのです。

…もう、お分かりですね。これと同じことが、「英語」と「英会話スクール」で起きているのです。

「講師は全員ネイティブの外国人」

という風に、ネイティブから英語を学ぶことこそが最上の方法であるかのように宣伝されているのに、実際に英語が出来るひとは、一握り。

なぜか。

英語ネイティブは、自分たちの英語の感覚を、体系立てて伝えることが出来ないからです。だから、

「とりあえず俺みたいにしゃべって。たくさんしゃべって。そしたら上手くなるから」という。でも、言われた方は困る。結局、器用な一握りの人だけしか上達できない…という、きわめてあやふやな状態になってしまっている。

結論です。

英語のネイティブスピーカーは、外国人である日本人に対して、英語表現などの生きた「情報」をいっぱい教えてくれる。

けれど、英語のネイティブスピーカーは、外国語としての英語を話すための「言語のスイッチを切り替える方法」は教えてくれない。否、教えられない。無意識でやってきたものを、他人に説明できないから。自分の中で、体系立てて理解していないから。

英会話スクールが乱立しているのに、英語を話せない人だらけという現状と、その解決策が、ここまで明らかになりました。

●「MF サーフィン」の技術を習得する方法

多くの人が英語が話せない原因とその対処が分かりました。では、これからどうすればいいでしょう？

今、あなたの前には2つの方法があります。

1つは、この電子書籍にここまで書かれてきた内容を再度読み返して、自分自身で「MF サーフィン」の技術を身に付けて英語を話せるようになることです。

少し時間はかかりますが、必要な情報は全て書いているので、頑張れば可能です。

もう1つの方法。それは、

私たちが提供する、MF サーフィンの技術が身につく、英語に切り替えるスイッチが身につくための、人数限定のオンラインセミ

ナーの中身を試してもらってください。

このオンラインセミナーは、実は10年以上の歴史を持ち、多くの海外駐在員の日本人や留学生、英語が話せず困っている人々を救ってきました。すべてそれも、MF サーフィン＝英語と日本語を切り替えるスイッチを習得して、英語が話せるようになったからです。

もしあなたが、この限定オンラインセミナーに興味があるなら、こちらから先行案内の登録をしてください。優先的に、限定公開の案内を、差し上げます。↓↓↓

【MF サーフィン＝英語切り替えスイッチの力が身につき、
英語が口から出てくるようになる

オンラインセミナーの先行案内に登録する】